

# 第2特集

## チームで目指す Diagnostic Excellence

### 医師の頭の中だけで行われる診断の時代は終わった

2024年の「世界患者安全の日」のテーマが診断の質向上であったことをはじめ、診断に対する社会的な関心が高まっている。近年、診断に関する理解が深まり、診断は医師の頭の中だけで行われるという解釈から、患者・家族や医師を含むさまざまな人物や機器・環境が相互作用するなかで創発されるようなものであるという解釈に変化してきている。また、診断が単に安全であるだけでなく、不確実性に適切に対処し、最小限の資源を用いて患者経験を最大化させるような一連の診断プロセスがDiagnostic Excellenceと表現され、Diagnostic Excellenceを目指すための根幹の1つとして、チームでの協働が位置づけられるようになった。

これらの考え方は良質な診断のためには重要ではあるが、具体的にどのようなことを指すのかがみえにくい。そこで本特集は、読者がDiagnostic Excellenceや診断におけるチームによる協働とは何なのかを知り、実践できるようになることを目指し、Diagnostic Excellenceのために求められる要素と、チームによる協働としてあげられることの多い連携について具体的に解説する。

編集幹事

獨協医科大学病院  
総合診療科

原田 侑典